

郷土資料 あれこれ 69

【問合せ】
社会教育課 郷土史編さん係
☎773-2197

慶応4年4月、戊辰戦争の戦火が魚沼地域にもおよび、同月27日、小出島の戦いが起こりました。浦佐の普光寺には新政府軍の本営が置かれ、負傷兵の治療にもあたっていたため、多くの負傷者が運び込まれました。

この戦いで戦死した薩摩藩兵8人と長州藩8人の墓碑16基が普光寺の裏山に建てられました。(石碑⑤②、墓碑は石写真の後列)

現在、この場所には日清戦争、日露戦争以降の戦死者の墓碑も建ち、「招魂社」と呼ばれ、地域のみなさんによって管理され招魂祭が行われています。

また、平成元年には戊辰120年記念事業として、墓碑の案内板が建てられ、墓碑とともに戦いの歴史を今に伝えていきます。平成2年には、招魂社に向かう小路脇にそめい吉野(桜)が植樹され、その記念として石碑が建立されました。

《参考資料》
『館報やまと』
『にいがた歴史散歩』



〔浦佐 普光寺〕

南魚沼市の石碑⑤② (墓碑)
「招魂社の墓碑」

今回は、戊辰戦争をキーワードに拾い上げた石碑を紹介します。

南魚沼市の石碑⑤
「戊辰戦士薩藩有馬誠之丞之詩」
〔浦佐 白山神社境内〕



昭和6年12月、薩摩藩の有馬誠之丞(薩摩藩外城三番隊長)の自らも戦った戊辰戦争での犠牲を忠魂するため詩を詠み、その詩碑が白山神社の境内に建立されました。(石碑⑤③) 有馬が目にした魚沼の雲煙と魚野川の急流に忠魂の思いがなぞえられています。

南魚沼市の石碑⑤④
井口徳四郎「旌表辞」
〔大崎 一本杉脇〕



大崎村出身の井口徳四郎は、普光寺に新政府軍が駐屯すると兵隊になろうと志願したといえます。願いはなかなか聞き入れてもらえなかつたようですが、やがて弾薬などの運搬係の役目を得ました。小出島の戦いでは地元出身者ということもあり地理に精通していたため、戦いに大いに貢献しました。

この功績などが認められ薩摩藩外城三番隊に編入となりました(この隊の隊長は、前述の有馬誠之丞でした)。その後、いくつかの戦いを転戦していきました。徳四郎は、長岡城などへの攻撃のなかで慶応4年6月7日、銃弾に倒れ戦死となりました。並みいる軍人にも劣らない戦いぶり、薩摩藩本営からも賞賛されました。

昭和7年4月、徳四郎の従弟を中心とした地元有志によつて大崎一本杉の下に「旌表辞」が建立されました。(石碑⑤④) 「旌表」とは、善い行いをほめたたえ広く世間につたえることで、この意のとおり徳四郎の功績を現在に伝えています。

また、同年、大崎神社境内に功績を永久に記念するためにと杉が植樹され、記念碑「徳四郎杉」が建立されました。(石碑⑤⑤)

《参考資料》『大崎の村誌』

南魚沼市の石碑⑤⑤
「徳四郎杉」
〔大崎 大前神社参道〕



南魚沼市の石碑⑤⑥
「花本聴秋の句碑」
〔東泉田〕



新政府軍の中隊長であった上田肇(美濃大垣藩出身)は、三国街道を経て越後に入り、六日町に屯営、越後各地の戦闘に向かいました。

後に俳諧師匠となり花本聴秋を襲名し、門弟のいる大月村を昭和3年ごろに訪れます。このときに読んだ大月の螢の群れの句は、石碑として昭和4年秋に寺が鼻(東泉田)に建立されました。(石碑⑤⑥)